

第2回アクティビティ・ケア実践フォーラムの開催に向けて

未曾有の大災害を経験した今、被災者に限らず多くの人々の「心のケア」が求められています。被災された方々への住宅や生活に対する支援は進みつつありますが、復興に向け、高齢者・障がい者の心の栄養となるアクティビティ・ケアがますます重要になってくるでしょう。私たち日本福祉文化学会と高齢者アクティビティ開発センターは、被災地の高齢者および障がい者施設への支援をすすめてまいりました。この度のフォーラムでは、過去の災害や、今回の被災地での活動報告を通して、震災後のアクティビティ・ケアの重要性とこれからについて考え合いたいと思います。

また第2回の今年も、昨年大好評だった実践報告や分科会もさらに充実しております。研究者と実践者の交流により、福祉文化活動の向上を目指すものでもありますので、ふるってご参加ください。

日本福祉文化学会 会長 河東田 博

高齢者アクティビティ開発センター 代表 多田 千尋

【1日目】 10月29日(土)

13:30 あいさつ

多田千尋 (高齢者アクティビティ開発センター 代表)

13:40 講演Ⅰ 「震災と福祉文化」

被災地における福祉の形、文化の創造をとらえなおす

河東田博 (日本福祉文化学会 会長/立教大学 コミュニティ福祉学部福祉学科 教授)

14:40 講演Ⅱ 「今求められる、 高齢者・障がい者への寄りそいケア」

人々のウェルビーイングから地域の自己実現社会を探究する

綿 祐二 (文京学院大学 人間学部人間福祉学科 教授)

15:40 実践報告「アクティビティ・ケア活動実践報告」

デイサービス利用者の 自己決定と楽しさの関係

〈発表者〉 マーレー寛子 (デイサービスセンターむへの里 施設長)



利用者がその日のプログラムを自己選択できる「講座活動」の実践報告を通して、その理論的裏づけや課題、レクリエーションにおける楽しさとは何かを考えます。

利用者ひとり一人が輝く 芸術療法

〈発表者〉 川瀬弓子 (デイケアセンター櫻の森 事務長)



早期認知症のお年寄りの脳活性化訓練として芸術療法を行い、効果を発揮している「櫻の森」の実践から、脳活性化と利用者ひとり一人が輝くこととの関連性を探ります。

高齢者の生活に密着した 園芸療法

〈発表者〉 毛利ユカ (いばらき園芸療法研究会 会長)



直接植物に触れ、土を耕し、収穫するという能動的な関わりや、花見のように受動的な関わりもでき、自然に異世代や地域との交流ができる園芸療法の実践法に注目します。

子どもが高齢者の気持ちを引き出す 年の差80歳のアクティビティ

〈発表者〉 高橋克佳 (AD8期/デイサービスセンターお多福)



敷地内に託児所を開設したデイサービスセンターでの、子どもとお年寄りの交流の様子や、それぞれの変化を通して、世代間交流の意味や実施するポイントを探ります。

17:30 交流会

全国から集まる仲間たちと、交流を深める夕べです。

研究者・専門家・実践家が一同に介し、職種を超えた情報交換をしましょう。

〈会場〉 立教大学 ウィリアムズホール2階「カフェテリア山小屋」 〈参加費〉 3,000円 〈定員〉 80名



気仙沼のお寺の本堂でおこなわれたシニアを対象にした伝承遊び (写真: 東京おもちゃ美術館)